

平成 28 年度農用地等の借受希望者を募集中！～11月2日(水)〆切～

農地中間管理事業を活用した農用地の借受け希望者を募集しています。募集要領は、下表のとおりです。なお、昨年度お申し込みいただいた方も再度お申し込みが必要ですのでご注意ください。

募 集 期 間	平成28年10月3日(月)から11月2日(水)まで
募 集 区 域	京都府内の農業振興地域を有する25市町村55区域 ※詳細は当機構又は市町村農政担当課にお問い合わせください。
応 募 方 法	農用地等の借受希望申込書に必要事項をご記入の上、提出してください。 ※申込書は、市町村農政担当課でお受け取りいただけるほか、 当機構のホームページからもダウンロード いただけます
提出方法及び提出先	持参、郵送の場合は、希望区域の市町村窓口に、メール、郵送の場合は、 農地中間管理機構 （京都府農業総合支援センター）に提出してください。

農用地等の借受に係る調査を実施～農地中間管理事業の取組改善に向けて～

平成 27 年度に農用地等の借受希望者募集にご応募いただいた経営体の皆様の内、本年度は応募を見合わせておられる皆様に、機構の対応や借受手続きなどについてご意見を伺いました。このうち約 2 割の方から「経営規模を拡大するため確実に借り受けできることを期待して応募したが、借受も受けられず、かつ機構から何らの情報提供もなかった」という回答をいただきました。また、8 割以上の方から「一度借受希望者の公募に応募すれば、取り下げるまで有効にして欲しい」というご要望がありました。機構としましては、希望される農地の条件などを詳しくお聞きし、貸付農用地の掘起こしを強め、ご期待にそえるよう取り組んで参ります。また、来年度に向け、手続きや提出書類の簡素化について検討を進め、多くの借受希望者の皆様に農地中間管理事業を活用いただけるよう努めて参ります。

農地集積の取組みに向け説明会を開催 ～南丹市園部町黒田地区～

南丹市園部町黒田地区では、10月1日、黒田営農組合の役員14名が参加し、農地集積の取組みに向け、京力農場プランと農地中間管理事業について理解を深めるための説明会が開催されました。当日は、南丹広域振興局職員からプランを作成する上でのポイントや当機構の森田現地駐在員から農地中間管理事業を活用する場合の手続きや利点などの説明がありました。参加者からは、「プラン策定にはどのくらいの期間が必要か」「機構集積協力金の交付要件としてプランは必須なのか」といった質疑がありました。同地区は南丹市中心部の西方約3kmと市街地に近い集落ですが、農家の高齢化や集落外への転出による住民の減少が進み、農地をどのようにして守っていくのかということが課題となっています。今回の説明会をきっかけに、集落全体で話し合いが進み、京力農場プランの作成、農地中間管理事業による担い手農家への集積へと発展し、地区の農業が維持されることが期待されます。

☆参入企業の真剣な取り組み紹介④☆～阿部農地利用推進員レポート～ 「遂に露地農業に進出！」

総合的な野菜事業を手がける**トレードグループ**（稲田信二代表）が露地農業に参入し、亀岡市に開設した、トレード亀岡農場にて自社生産を開始。稲田代表の野菜事業の革命に対する熱い思いから、流通、物流、植物工場ビジネスの確立などスピーディーに社会のニーズに応える事業を築き上げてきた。そのパワーの次なるベクトルとして位置づけたのが露地農業への参入だ。原点とも言える大地から生み出す農業の基本を成就してこそ、参入した意義の具現化と捉えているように感じる。安心・安全・安定供給と、日本農業の将来像を描きつつ、稲田代表の意欲は益々増すばかりと痛感した。



（左：トレード亀岡農場）



（稲田信二代表）

☆地域集積協力金を活用した事例紹介④☆～南丹市園部町大西地区～

農地中間管理事業により地域の農地面積の2割以上を集積した場合は、地域集積協力金が地域に交付されます。この交付金を使って地域の農業振興のために有効活用された事例をご紹介します。今回ご紹介する大西地区は、南丹市中心部から西に約4 km、園部川沿いに圃場整備された水田が広がる比較的平坦な地域です。高齢化が著しい集落では、農業人材や後継者の育成が急務であるとして、集落の全37農家が参加し、平成26年1月に農事組合法人大西営農組合を設立されました。平成27年度には、農地中間管理事業を活用、地域集積協力金の交付を受け、乾燥調整施設（粃搬送ライン）、玄米貯蔵庫、法人事務所などを整備され、地域の農業を守り、次代に引き継いでいく体制整備を着々と進められています。現在、60歳代の農家約40人のうちの3分の1で法人を運営されていますが、次代の後継者となる30～40歳代の農家は約30人しかいません。今は、土日を中心に役員が講師となって50歳代の農家に機械操作を訓練中とのことです。代表理事の北さんは、「人材の育成こそ法人設立の目的。何としても後継者に引き継ぐことが我々の使命。集落を守るその一念で頑張るだけ」とおっしゃっています。大西地区では、女性や高齢者も活躍でき、収益が地元還元される仕組みを目指し、今年からリンドウ1000株を植え付けられたそうです。きっと来年の今頃には、大西地域で育った紫のリンドウが花屋さんの店頭を飾っていることでしょう。



（乾燥調整施設（粃搬送ライン））



（大西地区オリジナル米袋）

✿イベントガイド✿

開催日	催事名	会場	お問い合わせ
11月10日(木)	農地農政相談	福知山市内複数会場	福知山市農業委員会事務局
11月17日(木)	山城地域就農相談日	府田辺総合庁舎	山城北農業改良普及センター 山城南農業改良普及センター
	◆ある程度の就農準備ができている方を相談対象として想定しております。 ◆就農準備がどの程度できているかにより、他の相談機関を紹介する場合がありますので、御了承ください。		

京都府農地中間管理機構では、平成28年4月から「FarmBankNews」を発行し、農地中間管理事業を中心とした様々な情報をお届けします。